

令和6年度 第2回甲賀市障害者施策推進協議会 会議録

【開催日時】 令和7年1月28日 9:30～10:50

【開催場所】 甲賀市役所3階 301会議室

【出席委員】(敬称略) 黒田 学 金子 秀明 岩田 孝之
松宮 貴義 岩永 信也 大久保 孝仁
菊田 幸世 計7名

【欠席委員】(敬称略) 西井 淳 川端 弥 菅沼 敏之 計3名

【事務局】 健康福祉部 部長 澤田 いすづ 次長 村田 稔明
障がい福祉課 課長 竹原 勝敏 参事 大西 裕紀子
課長補佐 久保 友幸 係長 前田 真美
係長 真鍋 みゆき 係長 藤原 安曇
こども政策部発達支援課 課長 福田 かおり

【傍聴】なし

【議事】

1. 市民憲章唱和

2. あいさつ

会長あいさつ

3. 報告・協議・審議事項(敬称略)

【協議・審議事項】

※資料1～資料5について、事務局より続けて説明を行う。

① 第1回甲賀市障害者施策推進協議会 ふりかえり

事務局：資料1(第1回甲賀市障害者施策推進協議会ふりかえり)に基づき説明

② 第3次障がい者基本計画(中間見直し)・第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画

の進捗状況について

事務局：資料2（第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画実績）、資料3（第3次障がい者基本計画（中間見直し）目標等管理シート）に基づき説明

③ 甲賀市手話言語及び情報コミュニケーション促進条例に基づく施策の進捗状況について

事務局：資料4（甲賀市手話言語及び情報コミュニケーション促進条例に規定する施策目標等管理シート）に基づき説明

④ 事前意見に対する回答について

事務局：資料5（事前質問事項及び回答）に基づき説明

○質疑応答

委員） 事前質問の3つ目、資料2⑦認定調査員数の質問について、現在の調査員数の8名が多いのか少ないのかはどうか。他市にも認定調査を依頼することがあるが、他市はすぐ調査に来てくれることもあり、他市と状況が違うので質問する。

事務局） 8名のうち3名が会計年度任用職員である。会計年度任用職員には主に区分更新の認定調査を依頼しており、残りの5名で新規の認定調査を対応している。また新規の認定調査件数は時期によりばらつきがあるため、一概に多い少ないは言えないが、現状はこのようになっている。

委員） 調査員の増員の予定はないか。

事務局） 増員の予定はない。

事務局） 補足する。職員体制については、4月当初は6名であったが、その後に2名増員している。それまでは地区担当を中心に調査の分配を行っていたが、現在は連携、調整しながら業務に対応しており、審査会に間に合うよう柔軟に対応しているところである。

委員） 資料3シート⑨の質問回答に、Ⅱ型が甲賀圏域に無いと記載されているがⅡ型とはなにか。

事務局） 1点訂正する。Ⅱ型が甲賀圏域に無いと記載したが、湖南市に1事業所ある。甲賀市にはないので、現在新しく開設に向けて協議しているところである。Ⅱ型とは、地域生活支援事業のサービスメニューであり、地域において雇用・就労が困難な在宅障がい者に対し、機能訓練、社会適応訓練、入浴などのサービスを実施するものである。昨今は高齢の障がい者の日中活動の場の問題やひきこもりなど社会とのつながりをもちにくい方もおられるので、地域に根差したところに居場所をつくるということで、甲賀市内での設立に向けて、

現状の把握から進めているところである。

4. 意見交換

・重点的検討事案について

事務局：資料 6 に基づき説明

委員） 甲賀の福祉人を育むということで、福祉人材の確保が重要であるが、現状離職率が高い状況である。昨今は民間企業でも人材確保が困難であるが、大卒初任給が 30 万円台など、福祉の現場との乖離感は大きい。昨年新しい施設をオープンした際に人材の募集をしたが、事務職は 1 名の募集に対して 8 名応募がある。同じ条件のはずなのに、支援員になると全く応募がない。障がい分野もそうだが高齢介護の分野でも、人材確保が難しく、事業の継続が難しい状況である。24 時間支援する生活型施設を持つ事業所は人材難と言われている。現在、全国的に社会福祉法人が連携して広域的な事業に取り組んでいこうという流れがあり、甲賀市でも地域共生社会推進課が推進する形で市内の NPO も含めて多くの法人を集めて学習会、研修会を行っている。保育、高齢、障がいなど多分野が参加し、刺激を受けている。自分たちで一度考えてみようということで、任意であるが、昨年 3 月に知り合いの理事長、施設長等が集まって、お互いの領域を超えて考えるという、身近な法人連絡会議として、課題は何か、人手がない、定着しないのは何故かということを考えている。我々は誇りを持って仕事をしており、素晴らしい仕事であることを発信していこうということで、昨年 7 月に研修会をし、分野を越えて 41 名の方が参加し、様々な意見交換をした。今後も継続していきたい。私も 40 年障がい分野に従事しているが他分野の職員と連携することは初めてである。昨年 11 月末には、特別養護老人ホームに行き、プライドをもって仕事をしている職員の姿を見たり、甲賀学園に行き子どもたちの課題をみんなで共有した。またその内容について研修会で報告を行った。今後も自分たちにできることから進めていこうということで、「シナジーリンク甲賀」として進めており、自分たちでつくっていく主体的、能動的な会議である。現在、10 法人が集まっており、今後も具体的な取り組みを行う予定である。

委員） 貴重なご意見であり、法人の枠を超えて他分野、多職種で連携を図っていくというお互いに理解を深めていくためのすばらしい取り組みをされている。

事務局） 先ほどの補足をする。法人の連携については、当初は地域共生社会推進課からの投げかけであったと思うが、現在は先ほどおっしゃったように法人が主体的に動かれて、そこに行政がついていくという状況になっていると聞いている。先般の施設訪問についてはケーブルテレビでも放映があった。新たな気づきもあったと思う。

これまでは市がお願いしたことに対する反応であったと思うが、現在は、同じ悩みをもつ

法人同士が、障がいの分野を越えて活動しているという、ありがたい話である。例えば介護分野でも以前に、人材の定着推進協議会を立ち上げ、最初は行政の方からお願いをしたが、その後、委員自らが出向いて PR する活動につながるということもあった。法人自らが課題を共有し、自ら動くことにより、そこから行政にしてほしいことが見えてくることもあると思う。そういったことをこのような場においてご提言いただければありがたい。

委員) 福祉人材の定着、確保が難しいという話であるが、甲賀市役所はどうか。現在は、自治体の方が直接大学に来て説明会を開かれるといった、10～20年前では考えられないことがある。自治体が、その自治体で現在働いている大学のOBを使いながら、市役所の説明、リクルートとして、自治体の説明会をされている。甲賀市でもそういったことをしているか。

事務局) そういったことは甲賀市では行っていない。ただ最近では、新卒だけでなく、中途採用、社会人枠での採用が増えており、そのような部分は変わってきている。

事務局) 一般職の事務職の応募は多いが、保健師、看護師などの専門職の応募は少ない。各市町の取り扱いの状況になっている。学校の方にお願ひに行くということは今のところはないが、今後は必要になるかもしれない。

委員) 例えば、法人の方が大学等に説明会に行く交通費を市が補助するということはどうか。福祉の現場は厳しい状況もあるが、現場では日々働き甲斐を感じていると思う。そのあたりをリアルに伝えることは大事、そういったことも考えてもらえればよい。

委員) 他にありますか。

委員) 先日、甲賀市湖南市就職フェアを行った。私の法人も一会員であり、当初協議会を立ち上げたときから、介護福祉についてより多くのみなさま、市民のみなさまに知ってもらい、人材確保につなげていくということで、人材確保をメインにこれまで就職説明会を実施してきた。が、もう一度振り返って、福祉という職業をより多くの人に知ってもらうためにどうすればよいかと考え、子ども向けのイベントを兼ねた催しを今回行った。20年後になるかも知れないが、20年後の未来を期待して、また、子どもを連れてくる親御さんが子育てを終えたら働けるかなという所にも向けて、子どもが来やすいイベントにした。ただ、多くの方に参加してもらったが、実際の就職説明会については残念ながら10名程度しか立ち寄ってもらえず、福祉を仕事として目を向けてもらうのはなかなか難しいと感じた。

紙面上では目標値に対してどうかというところでしか判断、質問がしづらい部分がある。現場で働いている人達は人材難の中で頑張っている。セルフプラン率が高くなって

きているのも、人がいるのかいないのか、専門性が低いのか高いのかという様々な要因があると思うが、甲賀の福祉人をどうにか盛り上げていかないと、せっかくすばらしい計画を立ててもなかなか実現しないため、やはり人が重要であると思う。

「甲賀シナジーリンク」の取り組みは、1法人が十分な人材を確保するというよりは、甲賀の中で福祉人材が確保できればいいという思いがある。その中の一つとして他分野を知るといふものがあり、障がい分野だけ頑張るのではなく、高齢分野等と連携していくものである。制度が整っていない時代は、困っている人に誰かが手を差し伸べて助けるというものであったが、その後専門的になり、制度が整ってきたのはいいが、連携が取りにくく、縦割りになった。そこで、分野を越えた取り組みとして、困っている人には誰かが手を差し伸べて助けるということで、甲賀で人材を確保するというのを現在やろうとしている。いろいろな形で協議をしてもらい、現場の職員も様々な形で頑張っていることも理解してもらい、行政に頼るだけでなく私たちも努力しなければならないが、福祉人材を甲賀に呼び込む施策が重要と考える。現場の職員がどれだけ頑張っているかを知らないことには、この計画の評価もしづらいと思う。そういったことも理解しながら計画を評価してほしい。

事務局） 様々な分野を越えての法人連携を自主的にしていただいている。以前は市が準備をするというものであったが、今は違う。自分の事業所だけでなく甲賀圏域の人材を考えていただいているのはありがたい。市がどういったことができるかについては、これから法人と話し合いながら、連携して進めていきたい。

委員） 障がいを持つ子の母の触れ合いの場として、以前はタイムケア事業のサマースクールがあったが、最近ではコロナの影響で形態が変わってきた。障がいを持つ子の保護者の話し合いの場がほしいということで、今、社会福祉協議会で「ふれあいサロンてとてと」を行っている。保護者が元気でないといけないので、障がいを持つ子の母の触れ合いを通じて、気分転換、情報交換の場としている。次回4月に行うにあたって、障がいのある人についての市民の理解を深めるということで、夢の学習事業をされている杉本先生に相談したところ、夢の学習においても、障がいを持つ子のことをいろいろ知りたいと、向こうもそのように考えていることが分かった。こちらは、これから子どもたちが地域でお世話になるにあたり、少しでも地域に理解していただくためには、情報の発信が必要であり、現状を知ってもらうことは大事であり、色々知ってもらうためのネットワークが大事であると考えている。人材に関してであるが、現在はタイムケア事業の形態が変わったが、その当時にサマースクールに中学生がボランティアとして何人も来てくれた。その多くのボランティアの中から福祉の仕事に就く人は少ないかもしれないが、何人かはサマースクールで福祉のことを知って、障がいや介護の施設の方に進んだということも聞いている。コロナ禍で制限もあると思うが、何かボランティアなど進めていけるものはあるのかなと思う。

事務局) タイムケア事業については現在も行っているが、言われたようにコロナ禍で実施できなかったこともあり、また放課後等デイサービスの夏休み期間中における利用が増えたこともあり、サマースクールへの参加人数がかなり減っていることは現状としてある。ただ規模は小さくなっているが、甲賀市では引き続き社会福祉協議会と委託契約をして事業を継続している。以前は旧町エリアごとで行っていたがそれは難しいため現在は全市単位で行っている。ボランティアについては学生は減っている。そういった中で今後どうしていくかの協議を進めている。例えば三雲養護学校の PTA との懇談会の中でも、甲賀市はタイムケア事業があるから良いという意見も聞いており、今後も続けていきたいと考えている。また、今後も様々な意見を頂戴し、ボランティアの確保など、そのあたりについても社会福祉協議会と継続して検討していきたい。

委員) 福祉人材をどのように確保していくか。昨年大きな全国障がい者事業所の大会で教え子に会った。ボランティアから始まり、社会福祉の実習があり、現在は障がい者の福祉事業所で勤務している。学生の頃より生き生きとし、よく話すようになり、成長もしており、これからも定着して法人で頑張るのだなと感じた。時間はかかることだと思うが、力を持つ子たちが何かできればよいと思う。

5. その他

(事務局より報告)

・施策推進協議会委員の任期は令和 6 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までの 2 年間になる。来年度も引き続きよろしくお願いします。

6. 閉会あいさつ

副会長あいさつ